報告（２）

広報広聴関係について

各種事業名		概要	開催場所	対象者	内容	数 （R2.8定例教育委員会会議以降新たに市のホームページに公開されたもの）
市長とドンドン語ろう！		市長が各区に出向き、まちづくりについて直接市民と対話する。	各区公民館ホール等	各区内にお住まいの方、勤務されている方	①まちづくり等について（市長） ②意見交換（市長、出席者） （平成27年度開始）	1
市民の声	市長への手紙	市民からのまちづくりについての意見や提案を市政に反映させる。		どなたでも	広聴課に寄せられた市長宛のもの。	14
	わたしの提言				広聴課に寄せられたもののうち、市長宛のものを除くもの。	

各種事業名	No.	開催日受付日	実施内容
市長とドンドン語ろう！学校教育版	1	Ｒ２ ８月	8月25日（火）に「市長とドンドン語ろう!学校教育版」が開催され、市立小中学校教諭と「1人1台タブレットを活用した新時代の学び」をテーマに語り合った。（当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育センターと各学校をリモートでつなぎ開催、YouTubeでライブ配信された。 やりとりの一部は以下のとおり。（熊本市ホームページ「ようこそ！市長室へ」（市政だより掲載版）より） （Ａ教諭） 昨年度は、ICTを一つの手段としてタブレット端末を活用しながら、さまざまな授業に取り組みました。 例えば、2年生の算数では、電子黒板に買い物の場面を商品のイラスト付きで映し出し、おこづかいでこの商品は買える、あの商品は買えないなどを児童に考えてもらいました。その結果を児童同士でタブレットを使って見せ合い、それぞれの考えの違いを見ることで、自分の考えを相手に伝えたいという思いを引き出すことができました。 これから1人1台タブレット端末を持つ環境になるため、ICTを有効に活用した授業づくりにチャレンジしていきます。 （Ｂ教諭） タブレット端末が導入されたことで、これまで以上に1人ひとりにあった「学び」が実現できることを実感しました。 例えば、「社会カルタを作ろう」という学習では、ある子はタブレット端末を使って社会問題の情報を調べてから書く、ある子は書ける所をまず書いてから情報を調べるなど、より自分のタイミングで学びを進めることができるようになりました。 今後はタブレット端末の持ち帰りができるようになることで、子どもたちが自主学習に使用するなど、「学び」への可能性を広げていきたいです。 （市長） ICT機器は導入することが目的ではなく、活用法をどれだけ思いつくかが大切です。必要があれば、新たなアプリや教材をインストールし、ポジティブに活用してほしいです。例えば、教育センターの近くには約400年の歴史を持つ熊本城があり、また、熊本には偉人もたくさんいます。このような地域の歴史や偉人の方々の業績を学び、学んだことについてプレゼンテーションすることで表現力を養う。そして、自ら学んだことを動画にし、地域の魅力を発信する。このようにICTツールをうまく活用することで、子どもたちのあらゆる「学び」が身につくような取り組みを学校では実践してほしいと思います。 熊本から教育を変えていく、そのような意気込みで一緒に取り組んでいきましょう。 ※全体内容は別添「市長とドンドン語ろう！学校教育版（議事録） 」のとおり

各種事業名	No.	開催日受付日	提案・要望内容	回答内容
市民の声	1	Ｒ１ 12月	○市立図書館の利用について 広域利用で熊本市の図書館のカードを発行してもらい利用している。 以前から勤務先は熊本市内であるが、今回、電子図書館を利用しようとしてカードが広域で発行されているからダメと説明があり、勤務証明書を職場で作成してもらい持ってきてと言われた。勤務先のIDカードを持って行ったがダメだった。利用のハードルを上げられたようで理解できない。	図書館窓口での説明不足により、ご迷惑をおかけしたこと、お詫び申し上げます。 電子図書館の利用資格については、著作権者との契約上の理由から、広域利用登録者を除くこととし、熊本市内に居住、又は通勤・通学をする登録者に限定しております。 図書館カードの登録区分を「通勤」に変更するため、IDカードを提示されたとのことですが、これによって勤務先の所在地が確認できない場合は変更手続ができません。お手数をおかけしますが、勤務地が確認できるものを提示いただくようお願いいたします。 なお、勤務地確認のため、図書館ホームページに掲載しております「雇用証明書」の書式をご利用いただいても結構です。
	2	Ｒ２ １月	○図書通帳のサービス導入について 私は現在0歳と2歳児を持つ母である。2人目を出産して、最近図書館や児童館を利用することが増えた。富合の図書館では、CDやDVDの貸出もありとても良い取り組みを感じ、他の図書館でも利用できるようになれば良いと思った。また、菊池市中央図書館では、借りた本の記録を通帳に印字できる「図書通帳機」を導入しており、このサービスは素晴らしいと思った。本の値段も印字して「○○円分読みましたよ」と記録に残せれば、読書のモチベーションもアップし、本への楽しさや図書館利用を増やすことにもつながるのではと思う。小さな子ども等にも本を楽しむ一つのきっかけになると思う。 現在、熊本市では、本の履歴を残すことはできるが、機械を使用してしか見れず、なかなか利用できていない。形として残り、記録もできる菊池市のような図書通帳機ができたらと思う。	図書通帳は子どもの読書意欲を促進させる効果があると言われており、導入されている自治体では、機械で記帳する方法や、履歴をシールで貼る、自分で記入するなど様々な方法で実施されています。 本市といたしましても、子どもたちの読書意欲を高め、楽しく読書に親しんでいただくきっかけづくりが大切と考えておりますので、今回いただいたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。 本市では、昨年１０月から、お手持ちのパソコンやスマートフォンから本市の図書館及び公民館図書室での貸出履歴を確認できるサービスを始めました。熊本市立図書館ホームページの「ＭＹライブラリー」からご覧いただけます。この他、電子書籍貸出サービスも新たに開始しましたので、併せてご利用いただければ幸いです。 なお、ＣＤやＤＶＤの貸出については、植木図書館でもご利用いただけます。

市民の声	3	Ｒ２ ２月	○ 児童育成クラブの開所時間について 現在、娘が児童育成クラブにお世話になっている。熊本市の児童育成クラブの開所時間は１８時までであるが、開所時間の延長をお願いできないだろうか。理論上、１８時までの迎えは困難である。（民間企業では、１８時終業の企業も多いのではないだろうか。） 当方、近隣に送迎等をお願いする祖父母をはじめとした身内もいないため、育成クラブから民間学童へ送迎バスを使い、通わせている。しかし、熊本市の方針で、今後は安全のため児童ひとりでは育成クラブから帰らせることができなくなる、と聞いた。児童の安全性を考慮してもらえるのであれば、まずは、育成クラブの開所時間の延長を考えてはもらえないだろうか。近隣の市町村は、開所時間が１８時半や１９時までと聞いている。切実に、改善を望んでいる。	現在、本市が運営する児童育成クラブの開所時間は午後６時までとしております。 この時間設定は、当初午後5時までとしていたものを平成16年度の制度見直しの際に、低学年児童にとって朝の学校生活の始まりから長時間にわたり集団生活を送ることによる体力やストレスなどの健康面の負担、翌日の学習や生活に支障のない時間等を考慮して設定したものです。 また、児童育成クラブでは利用児童の増加に伴い塾やスポーツクラブへの送り出し等の個別対応が増加しています。このような中で支援員が個別対応に追われる事で、本来の見守り業務に集中できず事故等の発生が危惧されます。また、育成クラブからの帰宅時に不審者による声掛け等の事案が発生しております。 これらの状況を踏まえ、児童の安全確保の観点からお迎えでない児童については一斉下校とすることで可能な限り集団で下校していただくよう基本的な方針を示したところです。 ご利用中のクラブにおける一斉下校の時間設定については、これまで習い事等で個別対応の希望が多い時間で設定したと聞いております。 ご要望いただきました開所時間の延長については、入会児童の増加により支援員の十分な確保ができないことや、クラブ施設の確保等の課題も多く、現状のクラブ環境の改善を優先的に行っているところです。 しかしながら、昨今の就労形態の多様化や核家族化等の社会情勢等、諸課題を踏まえますと、開所時間の延長にも取り組んでいくべき課題であると考えております。 今後、開所時間を延長できるまでの人材と施設の確保に向けた取組みを進め、児童育成クラブを必要とする児童とご家庭にとってより良い運営となるよう努めてまいります。
	4	Ｒ２ ２月	○ 児童育成クラブの時間延長について 児童育成クラブの時間が１８時までなので、仕事終了後の迎えが間に合わない。核家族の共働き世帯や母子家庭世帯のことも考慮してほしい。１９時まで延長してもらえることを切望する。	現在、本市が運営する児童育成クラブの開所時間は午後６時までとしております。 この時間設定は、低学年児童にとって朝の学校生活の始まりから長時間にわたり集団生活を送ることによる体力やストレスなどの健康面の負担、翌日の学習や生活に支障のない時間等を考慮して設定したものです。 ご要望いただきました開設時間の延長については、入会児童の増加により支援員の十分な確保ができないことや、クラブ施設の確保等の課題も多く、現状のクラブ環境の改善を優先的に行っているところです。 しかしながら、昨今の就労形態の多様化や核家族化等の社会情勢等、諸課題を踏まえますと、今回のご要望にも取り組んでいくべき課題であると考えております。 今後、開所時間を延長できるまでの人材と施設の確保に向けた取組を進め、児童育成クラブを必要とする児童とご家庭にとってより良い運営となるよう努めてまいります。
	5	Ｒ２ ２月	○ 体罰をした教師について 教師の体罰は非常識で絶対に許せない行為である。懲戒免職の厳しい処分にしてほしい。 親だって絶対に同教師を許せないと思う。これからは二度とないように徹底的に指導して調査するべきである。	教師は、子どもの模範でなければならない立場であるのに、ご指摘のような体罰が起こっていることに大変心痛めております。 体罰は子どもたちの人権を害する行為で許されるものではありません。今後、本市の懲戒処分の指針に則りながら、厳正に対応してまいります。 今後も、教育現場において、体罰が起こらない風土を作り、子どもたちはじめ市民の皆様の信頼を損なわない教育の場を保障できるよう努力してまいります。
	6	Ｒ２ ２月	○ 学校のコロナウイルス対策について 現在、小学校に息子が通っている。 手洗いうがいを学校でも推奨されているが、手洗いは石鹸を使っているそうだ。 コロナウイルスの感染拡大を予防するせめてもの対策として、学校に市として直接触る石鹸ではなく、ハンドソープを学校で全員が使用可能な状態として設置できないか。 マスクも用意ができない方も多い中、せめてハンドソープによる手洗いと給食前のアルコール（アルコールは確保が難しかもしれませんが）だけはしっかりとできる環境を学校に整えてもらえるとありがたい。早急な検討をお願いする。	通常、衛生用品の購入については、教育委員会より各学校に予算を配当し、各学校において購入しておりましたが、この度の新型コロナウイルス対策の中、各学校より、臨時的に教育委員会で衛生用品を購入し、配布してほしいと要望があり、教育委員会としましても、調達のための予算を確保し、業者と協議を行っておりました。 しかしながら、衛生用品が不足している状況の中、ハンドソープやアルコールについては、どの業者も在庫がなく、購入には至っておりません。 そのような折、熊本市立学校が３月２日（月）から一斉臨時休業となりました。 現時点では、臨時登校日及び春休み後の学校生活において、物品不足の状況の中での衛生対策を検討しているところです。

市民の声	7	Ｒ２ ２月	○ 新型コロナウイルス対策での学童保育の開放について ３月２日から市内の小中学校がコロナウイルス感染拡大防止のため休校となり、低学年の受け入れ策として学童保育を開放した。しかし、学童保育の生活環境は、狭い部屋にたくさんの児童が生活し、その上他の子ども達を受け入れるとなると、子ども達同士の距離が極端に近く、まさに濃厚接触そのものである。逆に感染が広がるリスクが高いと思われる。 狭い環境の中で長時間子供たちが過ごすとストレスもたまり、いろいろなトラブルが起き、けが等のリスクも大きいと思う。 また、マスクやアルコールの設置も十分なのか不安だ。 そこで、学校の教室等を開放して、学校の先生方も協力してくれればと思う。これでは、なんのために学校を休校にしたのか意味がないように思うが、学童保育の実態が理解もされずに、唐突に学童保育に子どもたちを受け入れさせる、国や自治体の安易な体制に大きな怒りと情けなさを感じている。 学童保育の生活環境や衛生面等をしっかり把握するために、各学童保育の現場の職員等にも意見を聞かれ、市長自ら視察するなど、小学校を休校したからその子供たちを学童にと安易に場所を変えるだけで、コロナウイルスの感染防止ができると思われないように対策をとってほしい。	本市の学童保育では新型コロナウイルスの対策としまして、マスクの着用や石鹸を使っての手洗い、アルコール消毒及びうがいを徹底するとともに、狭い部屋に大人数の子どもが集まらないよう体育館、図書室、教室などを利用し、児童は分散して活動を行うようにしています。 また、既存の支援員だけでは人員が不足するため、学級支援員をはじめ図書司書業務補助、教員等の学校職員の協力を得ながら配置を充足させているところです。 なお、先日市長は児童育成クラブに出向いて、支援員や保護者の方々と意見交換を行いました。支援員からは感染防止や怪我に対する気配りの大変さや、先が見えないことへの不安など、また保護者の方からは、学習の遅れや生活の仕方への戸惑い、学校再開の要望等、様々な意見を伺いました。現場の支援員や保護者の方々のご意見を踏まえ、子どもたちが安全に過ごせるよう感染防止のための策を講じ、市民の方にこまめに情報を発信するよう努めてまいります。
	8	Ｒ２ ３月	○図書館の休館について 現在市立図書館が休館しているが、図書館というものは普段の営業と休館の間にもう一つの営業形態があると思う。 ネットや電話などで予約を受け、その分の貸し出しと返却だけを受け付ける形。これだとほぼ感染の心配もなく今すぐにでも始められるサービスだと思う。　導入の検討をお願いする。	現在は国の要請を踏まえサービス全般を休止しておりますが、今後の政府発表や社会情勢を十分に見極めて、ご意見のようなサービスを検討して参りたいと思っております。
	9	Ｒ２ ３月	○政府からの臨時休校および学校活動自粛に対する考え方について 熊本市にある市立の小学校、中学校、高校でも要請を受けて臨時休校の措置や部活動を含む学校活動の自粛が行われていたはずだと思う。 しかしながら、水前寺にある水前寺競技場には中学生・高校生の姿が多数見受けられ、私が練習を行った14日の午前中には市立〇〇中学や高校の生徒も練習に訪れていて、〇〇高校に関しましては指導者が観客席に座っていたのを確認している。 私が考える公立校のあるべき姿として、政府を含む公的機関からの要請があればそれに従うべきじゃないのか。この日はこの他にも公立・私立問わず多くの高校生が指導者とともに来場して練習を行っており「臨時休校の趣旨を理解しているのか」と考えさせられた次第である。 最後に、各校の事情があることなので責めることはできないが、少なくとも公立校として他の学校のお手本になるような行動を行ってもらいたい。	熊本市教育委員会では３月２日（月）～３月２４日（火）までの期間を臨時休校としており、その間の部活動についても一切の活動を自粛するように通知をしております。 しかしながら、３月１３日には、児童生徒の健康保持の観点から、安全な環境の下に行われる日常的な運動（ジョギング、散歩、縄跳びなど）については、家庭の判断において行うことができること、また、運動等を行う際は、できるだけ公園等の安全な場所で運動を行うことなどについて、改めて通知させていただいているところです。 今回ご指摘いただいた学校に確認を行ったところ、生徒の自主的な運動とは言え、集団でジョギングを行うなど、部活動と捉えられかねない活動が行われておりました。高等学校においては、すでに校長から全職員に指導が行われておりましたが、生徒のストレスにも十分に配慮しつつも、一斉臨時休校の趣旨を踏まえた上で生徒への対応を行うよう、教育委員会から学校に対し、改めて指導したところです。 政府から出される新型コロナウイルス関連の対応については日々更新されていることもあり、今後も最新の情報を鑑みながら学校への指導を継続してまいります。

市民の声	10	Ｒ２ ３月	○熊本市立図書館の予約システム再開について 熊本市立図書館はコロナウイルス問題で2月の末から閉館しているが、このような時にこそ機能を発揮すべき予約機能も停止されている。 図書館の開館（館内で図書を探す）は無理としても、予約システムくらいは再開させてもらいたい。	熊本市では3月30日までに12人の新型コロナウイルスの感染者が確認されており、国内でも感染者が増加し続けています。現在、外出自粛の要請がなされており、感染拡大の速度を可能な限り抑制することが重要となっています。 臨時休館中に図書館ホームページの予約システムを使用し、予約本を受け取りいただくサービスの開始についてのご意見をいただいておりますが、熊本市においても不要不急の外出を自粛し、接触機会を低減することが必要ですので、図書館といたしましては、専門家の意見などを踏まえながら、適切な時期に、感染拡大を防止するための必要な対応を行ったうえで今後のサービス開始等について検討してまいります。 なお、休館中でも熊本市立図書館の図書カードをお持ちの方（市内にお住まいか通勤・通学の方に限る）は電子図書館がご利用いただけます。熊本市立図書館ホームページの「電子図書館」から、利用者ID（図書館カードの番号）とパスワード（設定していない方は誕生月日の数字、３月２５日生まれの方は０３２５）を入力すると電子書籍を端末上で貸出・返却が出来ますので、ご利用いただきますようご案内します。
	11	Ｒ２ ３月	○市立図書館について 図書館早く開けて下さい。長居できない工夫をすれば大丈夫と思います。	現在、外出自粛の要請がなされており、感染拡大の速度を可能な限り抑制することが重要となっています。 図書館といたしましては、専門家の意見などを踏まえながら、適切な時期に、感染拡大を防止するための必要な対応を行ったうえで再開する予定です。 なお、休館中でも熊本市立図書館の図書カードをお持ちの方（市内にお住まいか通勤・通学の方に限る）は電子図書館がご利用いただけます。 熊本市立図書館ホームページの「電子図書館」から、利用者ID（図書館カードの番号）とパスワード（設定していない方は誕生月日の数字、３月２５日生まれの方は０３２５）を入力すると電子書籍を端末上で貸出・返却が出来ますので、ご利用いただきますようご案内します。
	12	Ｒ２ ３月	○ 学校授業の遠隔授業について 私の家には、小中高校生が、合わせて5人いる。今日、インターネット環境について、回答するように安全安心メールがきた。パソコンは有るが、１台である。学校が全てインターネットでの遠隔授業になると、一人しか授業を視聴できない。時間をずらしての遠隔授業や、曜日や時間をずらしての学校授業だと助かる。	各学校で、学年別で授業を実施する等、時間が重ならないように時間割を工夫してまいります。また、ロイロノート等を利用して、自分の学習ペースや家庭のインターネット環境に合わせて課題等が提出できるようにする等、学習形態も工夫してまいります。
	13	Ｒ２ ３月	○ 市立学校においての新入生向け学用品販売について 新入生向け学用品販売については、短時間に多数の方が集まらないように取り組むこととし、例えば、学用品販売の時間を延長する、来校者はクラス別で集合時間を変える、など短時間に多数の方が密集状態とならないよう、各学校において工夫されながら実施されます。 今後も、新型コロナウイルス感染症感染防止に努めてまいります。	新入生向け学用品販売については、短時間に多数の方が集まらないように取り組むこととし、例えば、学用品販売の時間を延長する、来校者はクラス別で集合時間を変える、など短時間に多数の方が密集状態とならないよう、各学校において工夫されながら実施されます。 今後も、新型コロナウイルス感染症感染防止に努めてまいります。
	14	Ｒ２ ３月	○図書館について コロナ感染により公的な図書館が閉鎖になり困っている。現在、休職中である。家に引きこもっているわけにもいかないので、コワーキングスペースにて1日を過ごしている。時間があるので、本は読みたいと思う毎日だ。平日の学生の来ない時間は開放してもらえないか。	熊本市では感染者が増加し続けており4月12日までに21人となっております。 国内でも感染者が拡大し続けている状況です。現在、外出自粛の要請がなされ、感染拡大の速度を可能な限り抑制することが重要となっています。 熊本市においても不要不急の外出を自粛し、接触機会を低減することが必要ですので、図書館といたしましては、専門家の意見などを踏まえながら、適切な時期に、感染拡大を防止するための必要な対応を行ったうえで今後のサービス開始等について検討してまいります。 なお、休館中でも熊本市立図書館の図書カードをお持ちの方（市内にお住まいか通勤・通学の方に限る）は電子図書館がご利用いただけます。 熊本市立図書館ホームページの「電子図書館」から、利用者ID（図書館カードの番号）とパスワード（設定していない方は誕生月日の数字、４月２５日生まれの方は０４２５）を入力すると電子書籍を端末上で貸出・返却が出来ますので、ご利用いただきますようご案内します。

市長とドンドン語ろう！学校教育版（議事録）

◎市長挨拶

新型コロナウイルスの感染が拡大していく中で、特に、学校現場、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わっていった。

今回は、学校現場の先生から、実際にコロナ禍で教育活動を行っていくうえで、困難をどのように改善して乗り越えてきたのか、教育 ICT のツールを整備してきたが、これからさらに活用していくにはどうしたらいいかなどについて、先生たちの生の声をお聴きしたい。

ICT や教育現場をよりよくしたいと思い、教育長とともにこの「ドンドン語ろう！」を企画した。

◎市長から

熊本地震が起きたことで、授業自体ができなくなった。これを乗り越えるためにリモート環境、特に教育 ICT 環境整備は重要だと感じた。

熊本市の教育 ICT 環境は政令市の中でワーストレベル、平成 30 年度は 20 市中 19 位であったが、政令市のトップレベルを目標に環境整備を行うとともに、タブレットを配備することを目的化するのではなく、深い学びや深い思考、学びの質・教え方の手法も変えるツールとして、学びのトップレベルにしていく気持ちで進めてほしいと教育長にお願いした。

未来への投資を短期間で進めるのは財政的にも大変なことであり、一気に 30～40 億円の経費を教育だけに投資するのは難しかったが、復興の担い手・未来の熊本を創るためには、今、頑張って、子どもたちにいい環境で学んでもらうことが重要ということで教育への投資を増やしてきた。現在、本市は全国からも注目されるような教育 ICT の先進都市となっており、これは先生方のおかげだと思っている。タブレット端末の整備が今年の 4 月までに 3 人に 1 台の体制が整っており、今年度中には 1 人 1 台の配備が実現する予定。電子黒板や実物投影装置といった機材も揃え、一気に 40 億円以上の投資を行った。

学校のエアコンについても、財政的に厳しいとの話もあったが、先生だけでなく、子どもたちの環境を考えて、エアコンの整備を進めた。その結果、一昨年、全国的な猛暑であったが、本市では学校教育に関しあまり困ることはなかった。

それと同時に学校現場や教育センターで研修等を行うＩＣＴ支援員の配置もきちんと行ってきた。

また、産学官の連携としては、教育情報化の推進ということで協定を結び、いい教育環境を作る様々な取り組みを行ってきた。

GIGA スクールは国も進めており、本市は早めに踏み出して、今年度総事業費 57 億円の予算措置をした。本日参加されている先生方は 1 人 1 台になったらこう活用しようというイメージもされていると思う。

来年 3 月までには、必由館・千原台高校、平成さくら支援学校にも 1 人 1 台端末を整備予

定である。コロナ禍で、国からの予算補助があり、整備できたというのが今までの経緯。

では今から、ＩＣＴを活用した教育のこれからのことを議論したい。まずは、２校から事例発表をしていただき、学校現場での教育環境をどのようにしていくかということの意見交換を行っていきたい。

◎事例発表

■楠小

楠小での休校中のオンライン授業の実践報告をする。「私たちの生活と政治」という単元での実践。休校中の学びとしては、ピンチはチャンス！時間がたくさんあるからこそ、探究的で創造的な学びをしていこうと子どもたちへ伝え、私も自立した学習者にしていきたいとの狙いをもって実践した。政治はどこか遠い場所の話になっているので、少しでも子どもたちが自分のこととして捉えることができればいいと思い、子どもたちには市長になりきって市長フリップを作り、熊本市にエールを送ろうという課題を立てた。実際に作ったフリップには、桜を入れたり、手洗い・うがいを取り入れたりしていた。今回の学習で、確実に政治を自分の身近なこととして捉えることができた。

オンライン授業においては、日頃から授業改善をしなければならないと心がけており、気を付けているのは子どものアウトプットと授業の軸を子どもにすること。「教える」から「子どもたちが学び取る」という熊本市が目指すスタイルがあり、タブレットが導入されたことでその子にあった学び、学びの個別最適化ができることを実感した。

日頃の授業の取組を紹介すると、「社会カルタを作ろう」という学習を行った。読み札をスケッチし、五七五で読み札を作るというもので、子どもたちが得た知識を再構築して、自発的に教科書・資料等を読み込み、情報を精査しながら五七五にまとめる。１人１台になれば、ある子は NHK for school などで必要な情報を必要なときに見る、ある子は書き始めるなど、自分のタイミングで学びを進めることができるようになった。授業以外でも、家にいる子と学校にいる子がいっしょに活動できたり、休校後の新しい生活スタイルにおいても、オンラインで代表委員会・児童集会や終業式を行ったり、密になることなく全体的な活動ができた。

次に、学校全体の取組について発表を行う。これまでの実践から、新時代の学びに向けて必要なことが３つ見えてきた。１つ目は、１人１台タブレットの実現であり、現在は予約表を管理して保管場所まで取りに行っているが、１人１台の実現により、予約や取りに行く手間が省け、必要なときにいつでも使える。子どもたちの成果物や必要な情報をタブレットに保存できるので、学習がとぎれず継続的に可能となる。また、家庭学習での活用の広がり、その子にもあった学びも可能となる。２つ目は、教員のスキルアップであり、放課後や職員会議後に少しの時間で研修を行ったり、実践動画を共有している。これはスキルアップを図るだけでなく、やってみよう・できそうという気持ちの面でもハードルを下げて誰でも広く活用できるように取り組んでいる。３つ目は、保護者との連携・協力であり、オンライン授業では家庭での学習環境を整えたり、学習の様子についてコメントをもらうなど家庭の協

力が大きかった。今後、1人1台が実現することで、タブレットを家庭に持ち帰り自主学習に使うなど活用の場が広がると思う。保護者との連携・協力を図るためにも、学校での活動の様子や使い方などについて積極的に発信すると同時に、保護者の意見を聞いていくことが大切。9月にオンライン授業参観や学級懇談会を計画しているので、保護者の理解や協力が必要になると考えている。1人1台が実現するとともに更なる教員のスキルアップを推進し、保護者との連携を進めていくことで、学びの選択肢が増え、可能性が広がると考えている。

■桜木小

校内研究での取組を中心に実践を紹介する。ICT を一つの手段として活用しながら教科の本質を大事にした授業づくりを行ってきた。昨年度は、ものの見方・考え方を広げ、深める授業づくりという研究視点を基に、それぞれの学年で様々な授業実践に取り組んできた。

研究の視点としては、2つの視点から取り組んでおり、視点1として、児童が目的意識をもって取り組むために、学習展開・単元計画の工夫、問いの工夫を行ってきた。これは5年生の国語科の授業の実践であり、1時間ごとの学習活動が単発で、繋がりのないものとなることがあり、子どもたちは見通しが持てずに学習を進めていくことになっていた。ここで単元全体を通しての学習設定が重要になる。単元導入時に、児童とともに学習計画を作ることで、児童にとって必要感のある課題設定を行った。この授業では、和の文化について学ぶだけではなく、和の文化の魅力を伝えるプレゼン大会を行い、ALT（外国語指導助手）の先生に伝える、というゴールを設定した。こうすることで、児童は明確に目的意識・相手意識を持って学習を進めることができた。実際の授業では、このような流れで単元を進めた。

2年生の算数の実践では、導入時に児童の日常的な場面を設定し、子どもとともに考えることで目当てを引き出した。電子黒板にイラストを交えて場面を提示しながら、児童には買えるか買えないなどロイロノートのカードで自分の立場を示させた。思考のずれを可視化することで、考えたい・伝えたいという思いを引き出すことができ、明確な根拠を基に、答えを求める学習に入っていくことができた。また、児童が自分の学び方を振り返るために、学びを自覚する振り返りの工夫を行った。毎時間、視点を明確にしながら振り返りを行うことで、自分たちの見方や考え方がどのように変わったのか、自覚を促すことができた。継続的な振り返りによって、単元のゴールを意識しながら学びを繋げていくことができた。振り返りを書いて終わりではなく、授業の導入時に振り返りを活用することで、一時間ごとの授業の繋がりを意識しながら学びを進めることもできた。また自ら自覚する振り返りの工夫を行った。更にロイロノートを活用することで自分が学んだ情報を蓄積するとともに、他の児童の振り返りも共有することができた。その中で、高学年では日常的にキーボードを使用し、ホームポジションを意識しながら文字を入力させ、情報機器の基本的な操作を習得させるようにした。

次に、教師の授業コーディネートの工夫、児童の対話的な学びを生み出すために、教師の関わり方の工夫やそのための ICT 活用の工夫について考えた。まず教師の関わり方の工夫

として、つぶやきや意見、考えを取り上げること、また、他者との考え・違いに気づかせるために、児童の考えを繋ぎながら関わりあうこと、子どもの見方・考え方を基に課題を生み出すために問い返すこと、疑問を深めたり一人ひとりの見方や考え方を明確にするためにゆさぶることなど、教師の関わり方を工夫することで、一問一答ではなく、子ども同士の対話を促したり、教師と子どもの対話を促したりするような関わりあいとなるよう工夫した。

次に、対話的な学びを引き出すために ICT 活用の工夫を行った。3 年生の国語の実践では、詩の題材の中心となるものから言葉を連想し、それらの分類を通して詩を創作する活動を行った。自らの思考を整理する切り口として、シンキングツールを使いながら、言葉の吟味をすることができた。また、全体で共有する中で、ものの見方や考え方を働かせながら言葉の持つ五感を捉えることができた。さらに、自然と子どもたちが言葉に併せて動作化を行うことにより、言葉の持つイメージを他者と交流したり、自らの言葉で再構築する場面もあった。

他にも、1 年生の国語科の実践では、文章を読み、理解していく手段として Meta Moji（メタモジ）を活用した。4 年生算数の面積の実践では、複合図形の面積をどのように求めるかを考える際に、Meta Moji を使って考えさせ、操作しながら説明をするなど視覚的な表現ツールとして活用した。

最後に、6 年生の総合的な学習の時間では、表現する活動の一環としてプログラミングソフト（スクラッチ）を導入した。単元のゴールとして、表現方法を選択し、グループで話し合う中で、多面的・客観的に PR の内容やプログラムの方法を考えた。また、PR カードでは、Meta Moji などを使用し、PR 内容について情報を精査したり、整理する取組も行った。情報を整理・分析するために、ロイロノートに情報を蓄積させ、シンキングツールなどを活用して情報の整理・収集を行わせた。このように授業においてだけでなく、休校中の学習指導など ICT を活用しながら様々な活動に取り組んできた。これから、1 人 1 台の環境になるにあたり、さらに他の先生と情報共有しながら、チャレンジしていきたい。

◎意見交換

■弓削小

特別支援学級では、昨年度から 1 人 1 台の配備があり、先駆けて実践をしているので、その成果、子どもたちの変容を伝えたい。インプットとアウトプットというところが、子どもたちにとても効果があった。

インプットに関しては、学習障害や読み書きが難しい子に対して、今までパソコンなどで音声を流していたが、タブレットを使うことで自分が聞きたいところや読みたいところの音声を認識させ、読み上げ機能を活用して教科書の内容を理解することができた。その内容が理解できるといろんな発言ができ、学習に主体的に取り組むことができるようになった。わからないときにカードを送る個別支援があるが、個別にカードを送ることができるので、その子に応じた支援を行うことができた。そうすることで、「わかる」が「できる」に変わっていった。

アウトプットに関しては、表現し、自分を振り返る力が育成できた。特に、音読の動画を記録することで、今までは教師が聞いて終わりだったり、自分で振り返りができなかったところが、自分で見返し、振り返ることでこうしたらよかった、こうしたいなど、タブレットを使うことで子どもたちが主体的に音読に取り組むことができた。文字を書くことに時間を要する子もいるが、手書きや音声入力を活用するなど表現する方法としてタブレットを活用することができた。できないができるに変わったことで、子どもたちが自信を持って、学習に参加できる姿が見られた。タブレットを活用することで、その子に応じた支援をすることができる。

■帯山西小

とてもいいと思っているタブレットの使い方は、子どもたちが個別に学習を進める力を伸ばすことができること。子どもの選択肢の一つとして、タブレットを使って、いろんな表現方法や考えができる。1 人 1 台になると、学校から借りて、旅行先で興味のあるものをまとめたり、いろんな地域との繋がりなどができるようになるかもしれないので楽しみにしている。

今後、使いたいアプリや教材が出てくると思う。ロイロノートや Meta Moji はありがたい。算数忍者というアプリを使いたい子どもがいるときに、学校の判断で使用してもいいのか知りたい。

■城南小

前任校がタブレット端末先行導入校のため、他校より早く活用していたが、そのときはどんどん使わせないと、という気持ちが強く、それが逆に、タブレットを使うための活動になっていた。そうすると、教科の狙いから外れ、タブレットを使うことが目的になってしまい、ICT 活用の本質を見失ってしまう。今は、タブレットを使うための活動を考えるのではなく、学習活動の中でタブレットが子どもたちにとって文房具の一つのような道具として活用されるように、職員全体で共有し、意識して取り組んでいる。今年度からさらに活用の頻度も増えており、使いたくても使えないという状況がかなり増えてきた。そのため、1 人 1 台の環境はとても助かる。1 人 1 台になることで、書くのが苦手だから写真に残そうとか、逆に、ロイロノートで書くのが苦手だからノートに書くなど、子どもが選択できるようになるのがいいと思うし、一人ひとりが使い方を選べるのがいい。そうなるためには、子どもたちがいろんな使い方を経験しておかないと選択ができないので、教師側が研修や校内でのアイデア共有、他校の先生から学んだりするなど、自分たちが使い方をしっかり学んでいくことが、子どもたちの選択肢の広がりに繋がっていくと思う。

■銭塘小

天明中校区の 4 つの小学校で、外国語専科として英語の授業を行っている。小小連携・小中連携として取り組んでいるのが、タブレットを使った友達との交流である。他校の友達と

は、その学校に出かけないと関われないが、タブレットを使えば移動せずに交流できる。今取り組んでいるのが、英語の時間に発表した内容を録画し、別の小学校で見せることであり、2 学期以降はオンラインでの取組を考えている。先生や ALT の先生に話してもらうことが多いが、子どもは「先生だからできる」で終わってしまう。同学年の子がこんなにできると感じることで、小小連携の繋ぎとして役立っている。中学校に繋げていって、中学校の先輩に英語で質問するなど、外国語の時間を通して繋いでいくと、中一ギャップの解消にも繋がり、進学に対する不安も軽減されるのでは、と思い取組を進めている。

■東野中

タブレット端末先行導入校であり、新型コロナウイルスによる休校の事態でもいち早く対応できたと思っている。保護者の手応えとして、休校中でも授業を進めることができたという安心感にも繋がっていると感じた。できれば、私としては、子どもたちと会って、タブレットを活用していきたいと思うが、今、一番課題に思っているのは私自身のスキルアップ。あなたは本、あなたはタブレットで調べるというように、子どもたちが学びの方法を選択できる一つのツールとして活用しきれていない。

中学校としては、情報モラル教育の充実が特に大事になってくると考えている。タブレット端末の操作に詳しくなっていくことで、モラルを逸脱する可能性があるので、情報モラル教育を並行して実施していく必要がある。

■大江小

先程実践発表があったが、学習を支えるツールとしてだけでなく、新型コロナウイルスで休校したときにおいても、zoom でみんなと繋がることができたというのは大きい。熊本市だからこそできたことであり、学校に来たときにも、友達などと今までどおり話すことができたと思う。

1 人 1 台になる課題としては、今はうれしいからちゃんと使っているが、飽きがどんどん来るので、子どもたち自身に考えさせるための課題設定や授業をさらに実施していかなければならない。また、書くのが苦手だから写真でというのも円滑に進めるツールだが、書けないから書かなくていい、とならないように、苦手な分野の取組も取入れながらバランスを考える必要がある。

■富合中

休校中に zoom による健康観察を行うことで、生徒全員の様子や体調観察を行うことができた。教師だけでなく、子どもたちもうれしかったようだ。学習したいが学校に行けない生徒は、zoom を通して、先生との教育相談や養護教諭との面談、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーのカウンセリングを受けることができ、学校に来ることが出来ない子どもとコミュニケーションを図る機会にもなりとても助かった。

■飽田東小

課題としては、今の台数ではいつでも使えない、使いたいが別の場所に取りに行かなければならない、取りに行く時間がないなど、なかなか使えない状況があった。これからは、タブレット端末が 1 人 1 台となることで、子どもたちの可能性が大きく広がるのではないかと思う。

ICT を使ってよかったこととして、休校中にも子どもたちと zoom でつながれたことがある。また、ICT を導入することで、職員室の雰囲気が明るくなり、ベテランと若手が連携して授業改善を行うなど、ヘルプを出せる職員室を、現在、目指している。ICT の活用は、これから子どもたちといっしょに考えるうえでとても大事なことだと思っている。写真やデータのやり取りをスムーズに行うために、学校に Mac を導入できないかという要望が職員間であった。

■楠小

タブレットの導入により教員も子どもたちも選択肢が広がり、自身としても指導観・授業観が変わった。導入時に初めてタブレットを使ったが、選択肢の広がりを実感し、授業づくりが楽しくなった。子どもたちも楽しく取り組んでくれていると感じている。要望としては、授業づくりに集中できる環境がほしい。本来、私たちは子どもたちに学びを与えることが仕事であり、授業づくりについて考える時間が十分にとれないのが実状である。現在、情報システムが e ネット・c ネット・タブレットと別れているので、システムを一本化していくことで、教師も選択肢が広がり、働き方改革に繋がり、本来の仕事に力を注ぐことができるのではないかと思う。

■桜木小

これから 1 人 1 台のタブレット端末が配備され、教員のスキルアップが必要になる。限られた時間の中で授業づくりを行ううえで、情報の共有化を充実させてほしい。例えば、teams のように全校が繋がっている所にファイル保存ができる、ロイロノートや Meta Moji などで作成したデータを、同じ学校間だけでなく、学校を超えて共有ができる、などのシステムがあれば、自分でもやってみようという気持ちになるのではと思う。1 人 1 台の環境になり、アプリや児童用のデジタル教科書が充実してくると、その活用の幅が広がるので、検討を要望したい。

■市長

タブレットを導入してよかったという先生が多かったが、急激に導入したので戸惑っているのかと思っていた。ポジティブな話が多かったが、逆にネガティブな反応があったのではと思っており、その点について、ハードルや壁があるという話を聞きたい。

■弓削小

先生の話を聞く中で、タブレットは使うが、実物の鉛筆を持って書くことも大事にしなければならず、特に発達段階の低学年からタブレットを使っていいのか、という話があった。使いすぎによる視力低下など、健康面と学習面の活用とのバランスをいかに取るかが課題になる。

■東野中

去年の赴任当時は、職員は抵抗感があったように思う。自分も使い方が分からず、未知の世界への抵抗感があり、また、年齢による受け入れの差もあった。管理職や研究部の先生を中心に、とにかく研修することで、何とか使えるようになったと感じている。

■市長

抵抗感があった先生が、どのくらいで抵抗感が薄まってきたか、まだ抵抗感がある先生もいるのかを教えてほしい。

■東野中

昨年度は抵抗があったと思うが、新型コロナウイルスの影響があるかもしれないが、必要に迫られて意識が変わったのではないかと思う。

■市長

抵抗感があったかと思うが、必要に迫られていく中で、オンラインで授業を行うことは、今は普通になってきている。そういう環境にも人間は対応していくことができると思っている。手段としての教育 ICT なので、主体的に学び、伝えたいことを表現できるタブレットが有効であること、これはどの学校でも同じようにしていけると思う。最初は時間がかかると思っていたとの話もあったが、個別に学習する力がだんだんついてくるようになっていった。学校で使いたいアプリや教材を入れる件については、教育長に確認したい。

■教育長

本市のタブレットは自由に使えることを重視してこれまで整備してきているので、日本の公立学校では一番自由である。アプリを有料と無料のものに分けて、無料のものは教育センターに申請、確認を行いインストールすることができる。許可されたアプリであれば、どの先生も自由に使えるようになっている。タブレット導入時にそういう仕組みにしようと決めた。

■市長

Mac の導入については、タブレットを使って授業をする際に便利ということであれば、担当部署に導入可否について確認したい。市の幹部会議は全部タブレットで行っており、私のところに紙を持ってくる人はいなくなった。見て判断するという意味では、管理職・幹部の意思決定としてはいいのかもしれないが、現場ではこういうデバイスを選択してはどうかと話をしている。先生からも言えるような環境に変わっており、そういう要望を挙げてもらった方がいいので、どんどん言っていただきたい。

e ネット・c ネットなどあるが、ポータルサイトなどは市長室に行かないと見れない。情報システムを一本化していこう、行政システムのデジタルトランスフォーメーションをやろうと、総務局を中心に行っているところである。学校には複数のシステムがあるため、そこに時間を取られると授業づくりの時間がなくなってしまうので、シンプルにしていきたい。いいものを導入していくことで効率化がかなり図られるので、セキュリティの問題もあるかと思うが、そういう環境を作っていきたい。

■銭塘小

タブレットが入って衝撃的だったのが、最近スマートフォンに変えたような再任用の先生に、初任の先生がタブレットの使い方を教えるという光景があった。初任の先生は物心がついたときにはタブレットなどを使う環境があったと思う。再任用の先生も一人でタブレットを使って教材研究をしている。その先生は、自分一人ではできず、若い先生のサポートがなければできなかったと言っていた。若い先生も担任をもっているので、自分のクラスで精いっぱいということになる。これから、ぜひ先生のマンパワーを増やしてほしい。自分のように専科であったり、担任ではない先生を増やすことで、研修の時間を確保できるのではないかと思う。スクールサポートスタッフや指導員など非常にありがたいが、物はかなり揃っていると思うので、ぜひマンパワーの充実をお願いしたい。

■楠小

楠小でこれだけタブレット活用が広がったのは、情報担当の先生がとても優秀であり、機器の活用はもちろん、情報に詳しいだけでなく、授業のことも知っていて、他の学年も満遍なく見ていただいたため。そういう先生がいると、とても相談しやすいし、他の先生の情報も得られやすい。一人でも詳しい先生がいたり、他も見ている先生がいると、もっと可能性が広がるのではないかと思う。担任は自分のクラスだけで一生懸命になってしまう。別の立場の情報とか機器とか授業についても知っている人がいるというのが本校では大きい。やはりマンパワーが重要だと思う。

■市長

マンパワーの問題があると思う。文部科学省とも話をしたが、今から国にどんどん要望してほしいとのことだった。こうゆうツールがあると、もっと大人数でできたり、少人数のグループでするなど、かなりいろんな選択ができるので、マンパワーの充実もしっかりやって

いきたい。

■弓削小

学校に来ることに抵抗がある子ども、家からでも授業に参加できるなどの、学習の場所への配慮ができればと思う。

■市長

不登校などの学校に来られない子どもに対し、今よりもっとこうした方がいいということはあるのか。

■弓削小

学級の様子が見られる、子どもに話しかけたりできる設備あればいい。1 人 1 台プラス 1 のように繋がっていられる道具が必要かなと思う。

■市長

コミュニケーションをとるためのもう 1 台ということ。

■教育長

今度の補正予算で、各教室に 1 台ずつ授業配信ウェブカメラ導入経費の予算要求をしている。今は、ご自身のパソコンなどを使っているかと思うが、学校のパソコンでできるようにウェブカメラを各教室に 1 台ずつ入れる予定。

■市長

要望を言っていただければと思う。市は今まで ICT の機器の導入についてはワースト 1、2 レベルからかなり整備と活用が進み、英語の発表を子どもたちがレコーディングし、他の子どもに見せる。こんな使い方をしているのかと新たな展開に繋がる。導入することが目的ではなく、導入した後に新規の活用をどれだけ思いついたか、新たなアプリを入れるなど、ポジティブに回っていくようないい活用をする。そして、必ずしもポジティブだけでなく、読み書きの部分で言えば、書くのが苦手だからとか逃げる道具にＩＣＴを使わない、この部分は非常に重要と話を聞いて思った。先生がもっと楽しく活用できるよう、私もがんばるし、国にも予算の要望はしてきている。タブレットを霞が関に持っていき、2 分だけ時間をもらって、財務省・文部科学省の事務次官や国会議員にも見てもらった。熊本市だけが先行するのではなく、日本全国が同じ環境でなければだめだと思う。今、人吉や天草から来た先生から、なぜこんな格差ができているのかと言われないように、県全体としても、日本全体としても同じような整備ができるように、一人の政治家として市長会等にも伝えていきたい。教育センターの近くには熊本城があり、熊本には偉人がたくさんいるが、学校で歴史やルーツなど地域ならではのことを ICT ツールを使って教えていただく、例えば、身近な素材をい

かに使って、それをプレゼンする力、アメリカのシカゴの小学校に動画で送ることだってできる。そういう表現力をつけてもらえるようなことを学校で実践してほしい。

■教育長

要望があったら、できるだけ対応していくので、どんどん言っていただきたい。

■市長

教育長もいろんな話を聞いてくれるし、教育センターにもすばらしい職員がいる。熊本から教育を変えていく、そのくらいの意気込みでがんばっていきましょう。本日はありがとうございました。